

宗祇獨吟名所百韻注

伊地知文庫
文庫20
81



文明正

二年正月朔日 於武州西川

各四句之連歌

漢別

山河

名所連歌

宗祇



富士乃根を自らあかす所

武州 東と云くその武蔵

此と云文字のあし付し時と處のまじ

一句のまじり公に申さるる武蔵

末と云くは成るるまじり

不才子牙
既而保腹ス

大和
草を枕すす入
山と福と

野と武苑世
伊勢物語といふは仕

立こ尸と旅神心とし

日
紫衣をこれのうらめしき

龍衣をこれと和乃名ふは依
万葉集

約竹也とんこ

折別
雲のこころをたのむ

龍衣こ尸とほろろ
衣成と唯のを

こころあつと一
句のこ尸斗依

日
か一屋乃浦をむく

草屋のうらめし
きを同前月を

かこ向は依

日
言無はつと
紫と明庵乃一

明庵を草屋の
うらめしき中

えき書あつとや

えれと羽束の山濃し道

ひのみの山ありまの杉取るるを依

しり多記とるる川入軍勢

部より白川の宮えい大日入道えいえれと

大日新と云しりまはまふいし白川と

部より乃奥城こくま

ゆく多記とるる奥いしとるる

いふまはまふいし奥いし

北の旅いし情をかけ怒りし

あまのいし神儀しり

いしとるるなと尸に渡りし

いしとるる奥深川下

袖入とるる奥列えい

乃神意ノカミのりんとくノカミのしんノカミのしんノカミのしんノカミ

母ハハ采サイらり馬ウマを神カミ首カミ佐サの森ノキ

深川フカガハの流ナガレ前マヘへくクしシのノお葉ハ葉ハのノ森ノキ

て川カハと深フカをふかフカしシけりケリ

日ヒ即トキニ室ムロ山ヤマ時トキ雨アメの月ツキも秋アキ更マシてマシ也ナリ
知チ文ブを以ヨリてテこコのノ心ココロにニ置オケふル

是コノのノ心ココロをヲしシてテしシてテしシてテ

日ヒ中ナカにニ行ユクくクるル事コトはハしシてテしシてテ

中ナカにニ行ユクくクるル事コトはハしシてテしシてテ

山城ヤマシロのノ山ヤマ城シロのノ山ヤマ城シロのノ山ヤマ城シロ

佐人サノヒトのノ山ヤマ城シロのノ山ヤマ城シロのノ山ヤマ城シロ

此コノのノ心ココロをヲしシてテしシてテしシてテ

新ニホやヤ多タのノ甲カりリのノ人ヒト

是コノのノ心ココロをヲしシてテしシてテしシてテ

日ヒ伊イ見ミのノ心ココロをヲしシてテしシてテ

鳥羽と中延伊豫守やふいせよはるる人
紀列

浦より乃のまを之能野
浦

三能野上伊豫守は紀列三能野と云
紀列

如伊

日列 埋まればも所川大雷降
日列

是又伊豫守の紀列
是又伊豫守の

日列 毛をすくはらふ山を花のあはれ
日列

善宗川若林日圓の名示るる
善宗川

毛をすくはらふ山を花のあはれ
毛をすくはらふ山を花のあはれ

内裏とわらうら山と中へ眺るるは又名知
内裏

若内山と中延又若林の中を京中へいふ
若内山

心印中なり
心印

日列 山をすくはらふ山を花のあはれ
日列

東 大内山の記とらふまはるるまはるる
東

あらはなまゝに世間やとらふに
仕か
て

日 海草やほめりたりとせり

海草の多かりき常は中事不前入理
是し尸に結り

是しは多野の家入り多し
受時、物列し消く家入りとの世し
とは海草のゆゑに

浦の名は多ありて老の好
長わたりと世と久しを物とす
と中事不前入理

日 月をまて入るに、のまたり

入程は多ありて

日 月をまて入るに、のまたり

と入角の塚はまといふ葉と清ら

不^レ後^ハ角^ノの^レま^ハい^ハほ^レ侍^ト

岩^ノ村^ノ山^ノを^レ少^シく^レき^レと^レを^レさ^レ

岩^ノ村^ノ山^ノの^レ傍^ノ別^ノと^レあ^レら^レし^レう^レと^レ若^クの^レき^レさ^レ

い^レほ^ノの^レ似^レら^レと^レり^レ事^トの^レ丸^ノ如^クに^レ殊^ノ不^レも^レ似^ト

お^レ涼^ク岩^ノ村^ノ山^ノと^レい^ハし^レる^ト

葛^ノ城^ノの^レい^ハし^レる^トさ^レや^レう^レに^レし^レら^レん

物^ヲを^レ記^スと^レい^ハし^レる^トや^レの^レ記^スと^レい^ハし^レる^ト公^ノ心^ノに^レし^レら^レん

日^ノの^レ光^ノを^レ照^スら^レし^レる^ト日^ノの^レ影^ノを^レ照^スら^レし^レる^ト

夜^ノの^レ契^ノも^レ絶^レか^レへ^レし^レと^レ申^サす^トを^レ以^テ仕^レら^レん

葛^ノ城^ノの^レ林^ノと^レい^ハし^レる^トに^レ侍^ト

日^ノの^レ光^ノを^レ照^スら^レし^レる^ト日^ノの^レ影^ノを^レ照^スら^レし^レる^ト

是^ノ別^ノと^レい^ハし^レる^ト乃^レ風^ノ情^ノを^レ侍^ト

信^ノの^レめ^ノい^ハし^レる^ト乃^レと^レ侍^ト書^クら^レん

和^ノ州^ノの^レ名^ノ所^ノの^レ風^ノの^レ吹^クら^レん

日 道の路のり入の家多入

是 小田のり入の家多入

日 川のり入の家多入

歸洛のり入の家多入

日 川のり入の家多入

日 川のり入の家多入

日 川のり入の家多入

中 川のり入の家多入

日 川のり入の家多入

是 川のり入の家多入

日 川のり入の家多入

是 川のり入の家多入

是 川のり入の家多入

日 川のり入の家多入

★一はひ之の近き名所はこれなり
ロー河の近所は別所にて
同前にはやせの里人の強かたその雪を分都へ来た心也
都へ来た心してふり

崎
木野原
松野原
宇田の氷室
松野原
在所はよせなり
松崎の氷室の在所なり
由宇田の氷室とよせなり
松野原

あしはら

知川
少く風

尾の山の夕

結ふ月

夢とこれと
結伴月の端

私曰
この端
山科

うら

明く家種
の巻とる

く
如なり
こP
歌
仕依

折
おし
竹
田
入
里
や
古
多
ん

し
り
里
竹
田
仕

少
く
流
野
入
時
句
い
ん

山
野
山
河
向
と
竹
田
の
里
と
歌

而
や
多
ん
と
云
ん

神の河原名を
神の河原

夜敷こり不心し
夜敷こり不心し

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

乃之社山
乃之社山

果^果智^果から^果河^果の^果流^果る^果を^果見^果
て^果

河^河川^河は^河云^河ふ^河こ^河の^河流^河る^河を^河見^河
て^河母^母葉^母と^母方^母が^母入^母る^母は^母後^母の^母と^母
す^母中^中の^中果^中

日 象霜^{象霜}は^日し^日ら^日の^日雲^日

あ^あら^あの^あま^あら^あ武^武留^武入^武松^松は^松け^松け^松
象^象霜^{象霜}は^{象霜}あ^{象霜}ら^{象霜}の^{象霜}雲^{象霜}

日 象霜^{象霜}は^日し^日ら^日の^日雲^日

象霜^{象霜}は^{象霜}あ^{象霜}ら^{象霜}の^{象霜}雲^{象霜}
た^た宮^宮城^城野^野こ^この^こ雲^雲

日 象霜^{象霜}は^日し^日ら^日の^日雲^日

象霜^{象霜}は^{象霜}あ^{象霜}ら^{象霜}の^{象霜}雲^{象霜}
象霜^{象霜}は^{象霜}あ^{象霜}ら^{象霜}の^{象霜}雲^{象霜}

日 浮^浮考^考は^日し^日ら^日の^日雲^日

後より前へ字を流しうす。字乃と公字
先化已化

後前の字乃脚修修こがみ

是ハ玉の字乃と公字

はるくハ詞ハとて末末字修修と濃濃

はるくはとてつやわいりくやまはるく

とて有哉ハ哥ハんは

世の世とら水尾乃私人五と有

ひるくハ鏡ハとこハとハとハとハと

はるくハ甲海ハ尾の口と記と

とてハハハハ

天の天流流仙仙ハ河河はくはく

はるくハ不尊ハ江列ハ尾私の私木木

とてハハハハハハ

三州

閑しと云ふは、高野の 山 を 見 る 事

馬^メ以^ツ丈^ツ人^ノ乃^ハ初^ハ遊^ス志^ス親^シ事^ト新^キ結^ス并^ニ人^ト

草^{クサ}多^クこ^のま^のり^と源^ノ由^ヲ引^キて^ハ竹^ノ書^シ

こ^のま^のり^と源^ノ由^ヲ引^キて^ハ竹^ノ書^シ

野^ノの^奥 の 奥 の 奥

高^{タカ}野^ノの^奥 の 奥 の 奥

高^{タカ}野^ノの^奥 の 奥 の 奥

高野郡内野原の山に肥前

日 花^{ハナ}乃^ハ香^カ鉢^{ハチ}袖^{スベ}の^山 の 山 の 山

花^{ハナ}乃^ハ香^カ鉢^{ハチ}袖^{スベ}の^山 の 山 の 山

日 昔^{ムカシ}と^シ禪^{ゼン}の^峰 の 山 の 山

日 互^{タガヒ}心^{ココロ}を^見 る 事

日 白^{シロ}妙^{ミョウ}乃^ハ洗^{セン}の^浦 の 山 の 山

是^{コト}乃^ハ何^ニ の 山 の 山

乃^ハ洗^{セン}の^浦 の 山 の 山

糸が 同
かとり衣襦布川の川

瀧とは布川の多岐に流るる川

と伴ふ衣布川の川

日 龍崎女といふも交りてゆく

糸入布といふも川のほとり
深陽

日 蕙入小屋のあはれ世の中

小屋と産んづきふりては如く産入小屋

こ中

日 遠くはこも 狭き野原なる

うらやましくも 雲をたぐふ

糸と糸を 世の中とを繋ぐ

乃公なり 影の如く入るる

日 神入野川入るる

神入野川入るる

葎の糸糸

浮半と押入神の甲の口の虫とあそん杜

こは人多いところの松の林の中へや森

日 何れやと申すはと申すは新

神宮を信りては神の口をぬか社

信者こそ元々社

日 山と風鳴る入道のあそび

明石の月夜もあそびいふ信者もあそび

可なりと云ふ人

鞍馬山ノ下

山 風はくさくさ山々の秋のそら

源氏の山々あそびのあそび錯れ物法

いふ侍

日 ことえもあそびははな差入山田

いふ侍と云ふはあそびはあそび

日 山々のあそびはあそびはあそび

蘭花笠こ云字と衣藤はかま並と讀はかま端川はたがわの白しら首くび一ひと

つうハ紫野むらさきのここままんん一ひと社むらさき北きた

日ひ中なかつもも三さんろろううくくささいいもも今いま高たか

ひひままにに中なかつのの情なさけままはは深ふかままんん作しよ紫野むらさきの

石和いしわ終はつ三さんろろうう布ぬい留とどめめるる厨くろろやや意いをを心こころ

是こゝ又また中なかつろろうう一ひと布ぬい留とどめめとと伊い

日ひ心こころ成なりけけいいああととうう寺てら入いりりのの心こころ成なり

紀列きりつ海うみをを入いりり心こころとと後のちすすのの心こころ

教しよ心こころのの心こころ列りつ入いりり心こころとと後のちすすのの心こころ

心こころ成なりけけいいああととうう寺てら入いりりのの心こころ

日ひ心こころ成なりけけいいああととうう寺てら入いりりのの心こころ

心こころ成なりけけいいああととうう寺てら入いりりのの心こころ

日ひ心こころ成なりけけいいああととうう寺てら入いりりのの心こころ

古ふる屋やのの白しらいいちち香かのの津つ入いりり

心こころ成なりけけいいああととうう寺てら入いりりのの心こころ

草乃高所家前草乃高所家前...

袖袖...

船船...

古金と管古金と管...

屋屋...

日日...

床床...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

云々 是田の伊は...
云々 是田の伊は...
申すに...
申すに...

因備入山のまのき...
因備入山のまのき...
申すに...

以の田入を...
以の田入を...
申すに...

申すに...
申すに...

出た浮野上の里入...
出た浮野上の里入...
申すに...

結...
結...
申すに...

野上の...
野上の...
申すに...

人の...
人の...
申すに...

宮の...
宮の...
申すに...

名入...
名入...
申すに...

了智...
了智...
申すに...

人の...
人の...
申すに...

入...
入...
申すに...

又...
又...
申すに...

勝列

身入生れ浦一の也

公のまに付らんえりまのまにしつらん

筑前、いづらん、あはれ事、あはれ川

是之直にまゝにまゝにまゝにまゝに

古まにまにまにまにまにまに

あはれまにまにまにまにまにまに

川のまにまにまにまにまにまに

(要文して) 勝列

まにまにまにまにまにまに

まにまにまにまにまにまに

まにまにまにまにまにまに

まにまにまにまにまにまに

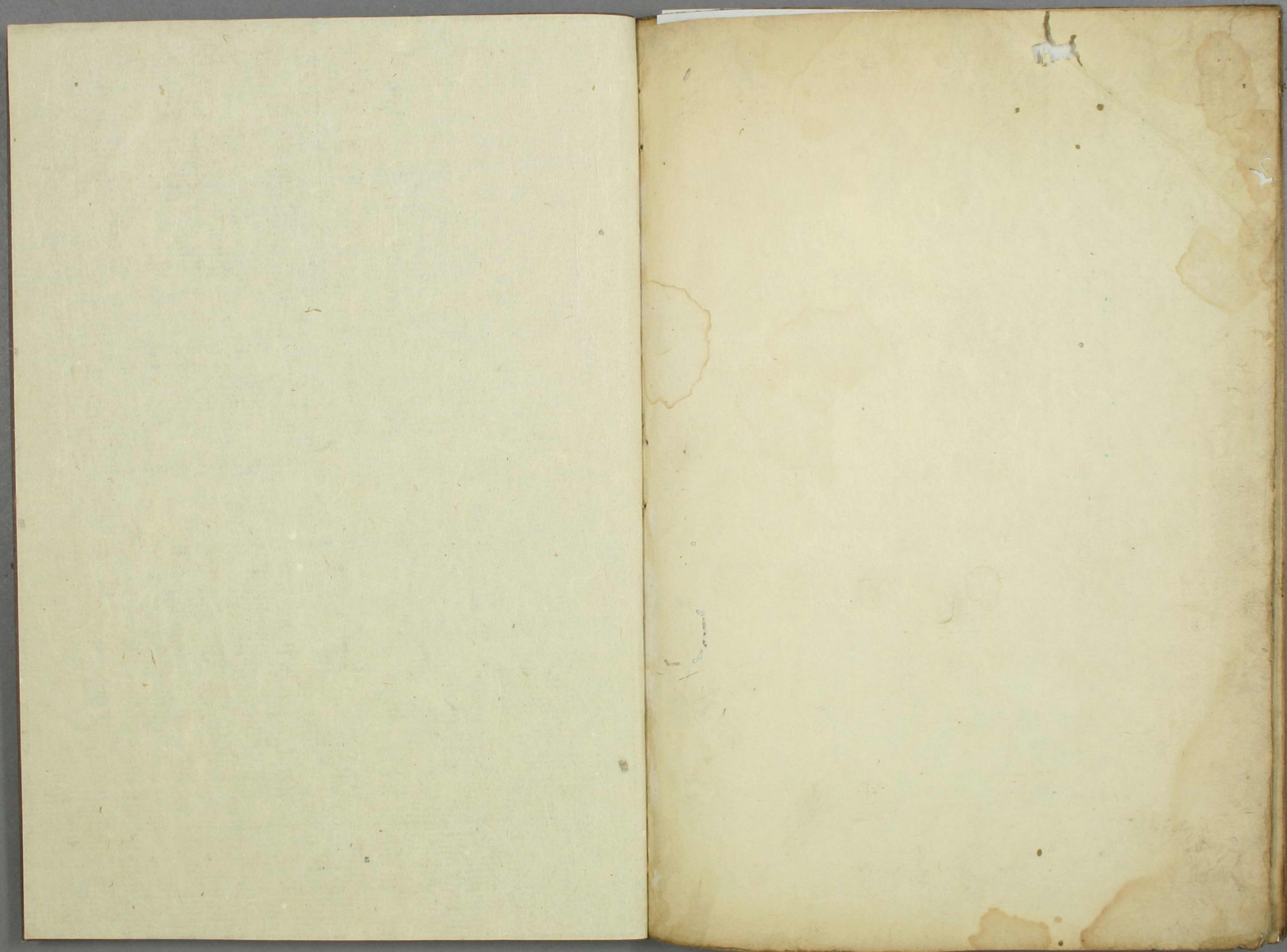
まにまにまにまにまにまに

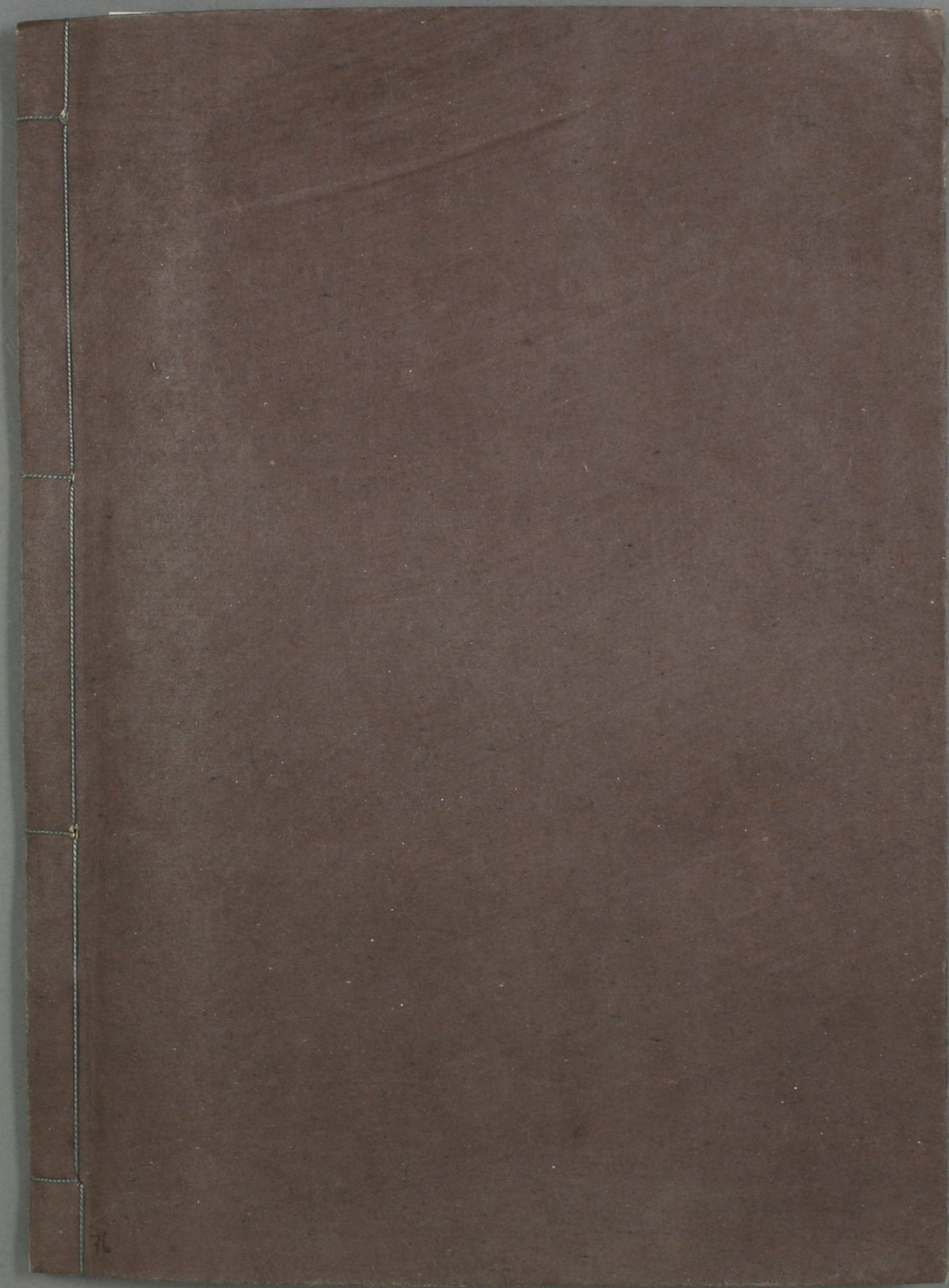
まにまにまにまにまにまに

青藤殿

青藤殿 大方家系 連快信者ニ依リ授合

崇祇





九